

令和2年度 さいたま市立大原中学校 自己評価書

校長 小 熊 誠



1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 生徒の主体的な取組の推進
 - ・生徒たちの、生徒たちによる、生徒たちのための学校という意識を高める教育の推進
- (2) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
 - ・授業規律、学習の基本的姿勢の習得 ・「授業改善の6つの視点」を取り入れた授業改善
 - ・教科横断的授業の実施
- (3) 豊かな感性や人間性を育む教育の推進
 - ・道徳的実践力の育成 ・いじめや差別をなくし人権意識を育てる
 - ・夢と希望を抱ける計画的な進路指導の実践
- (4) 組織的な生徒指導、教育相談体制の充実
 - ・方針の共通理解と指導ベクトルの向きの一致 ・心のサポート手引きの徹底
 - ・心をつまずきに寄り添った教育相談の充実
- (5) 特別支援教育の充実
 - ・ユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業づくりや学級づくり
 - ・個別的教育支援計画の活用
- (6) 健康・安全教育の充実
 - ・健康状態に応じた健康指導の展開 ・基礎体力の向上と健康の維持・増進に向けた取組
 - ・安心・安全・衛生的な学校環境の整備
- (7) 開かれた学校づくりの推進
 - ・12年間を見通した小・中一貫教育の推進並びに高等教育との接続
 - ・保護者や地域との連携で、地域とともに歩む学校づくりの推進
 - ・学校を核とした地域コミュニティの構築
- (8) 機動力のある組織づくり
 - ・管理職への報告・連絡・相談の徹底とその後の確認・見届け
 - ・迅速・誠実・アフターケアの徹底 ・教職員事故の撲滅

2 評価結果について

- (1) (2) 全教員が指導案に主権者教育の視点を組み入れた指導案を作成し、公開・研究授業を行った。「よい授業」の全校生徒アンケートでは、前年度の市平均をすべての因子において上回っている。また、生徒アンケート「学校は、生徒一人ひとりを大切にし、尊重している。」では、6.4ポイント上がり90.6%となった。生徒会本部役員等からなる「大原前進プロジェクト」(子どもいじめ防止対策委員会)を発足し、本格的に活動を開始した。今後も、主権者教育の研究を主軸とした教科横断的授業の実施などの学力向上の取組、生徒主体の学校創りを充実させていきたい。
- (3) (4) (5) 生徒指導・教育相談の検討会の毎週の実施、関係機関を交えたケース会議の実施等により、職員間の報告・連絡・相談・見届けを徹底した。特別支援学級と通常学級との連携、校内研修の充実等により、個に応じた支援の充実に努めた。生徒アンケート「私は、頑張ったことが先生や仲間から認められる場面がある。」の評価が3.6ポイント上がり、91.6%となった。また、保護者アンケート「生徒のことで問題が生じたとき、学校は適切にかかわり改善に努めている。」の評価が5.6ポイント上がり、83.8%となった。今後も、子どもの心の小さな変化を見逃さない取組、子どもが自身の価値を実感できる取組を充実させていきたい。
- (6) 施設管理事故ゼロを達成した。保護者アンケート「学校は、学校外で交通マナーや公衆道徳を守っている。」の評価が7.9ポイント上がり、78.0%となった。昨年度と比べると大幅に上昇したが、本校周辺の交通事情を考慮すると、日常生活での指導をより一層充実させていく必要がある。
- (7) 保護者アンケート「生徒は毎日、明るく楽しくはつらつと学校生活を送っている。」の評価が4.9ポイント上がり、91.7%、「学校は、生徒たちの様子や必要な情報を保護者に適切に伝えている。」の評価が、3.4ポイント上がり、81.2%となった。学校と保護者の良好な信頼関係が築けていることの表れであると考えられる。
- (8) 「教職員は、互いに協力して熱心に日常の教育活動に取り組んでいる。」の評価が6.4ポイント上がり、90.0%となった。コロナ禍が終息した後も、今年度同様、校長を中心としてスピード感をもって組織的に、諸事象に対応していきたい。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

保護者アンケート「学校は、一人ひとりの生徒たちが分かるように学習指導をしている。」の評価が、昨年度より7.7ポイント上がり74.3%となり、生徒の評価と保護者の評価の差が大幅に縮まった。今後も、より質の高い教育実践を追求していくのはもちろんのことであるが、学校での取組を積極的に発信するとともに、生徒が自己の学力が向上したことを実感できる取組をさらに充実させていきたい。